

目 次

はじめに.....	i
-----------	---

総 論

第1章 中国医学への道と修練	3
中国医学との出会い	3
十分な生薬を使いたくてクリニックを開業	6
Column 張炳厚老師	7
第2章 問題となる生活習慣とは何か	9
発がんのポイントは「がん幹細胞」	9
がんの危険性を低下させるには毎日の生活改善がポイント	11
「冷え」がいかに重要な病因であるか	12
五味のバランス	15
上手な気晴らしはどのようにするか	18
第3章 現代のがん治療の問題点	21
がんが「全身の病」であることが忘れられている	22
三大療法の問題点	23
免疫療法には個々に応じた対応が必要	26
「がん告知」の考え方が乱用されている	28

第4章 中国医学だからオーダーメイド治療ができる	31
日本の東洋医学には3つの流れがある	31
健康の基本は陰陽五行のバランス	34
オーダーメイドの処方が行われる中国医学	40
第5章 統合医学によるがん治療の根本は 自己治癒力の向上	43
統合医療とは	43
気・血・津液を補うことと流れを改善することが問題	45
気・血・津液の流れの改善状況に合わせて投薬	47
コタカ式がん治療の中心となる三者併用療法	48
Column 中医火神派	49
刻々と変化する証と処方	52
QOLの面からも効果は歴然	53
食事療法の考え方も西洋医学とは大きな差	55
第6章 「なぜがんになったか」を考えた弁証論治の実際 ..	57

各 論

第1章 用薬法の基本方針	61
基本的な治療方針	61
再発不安への対処	64
Column 日常生活で問題になる睡眠と便秘に対する対処法	65
舌診と脈診の実際 ～症例を読むにあたって～	66

Column 服薬法	71
第2章 上部消化器がん	73
概況	73
KEY となる生薬——木鼈子	74
Column 李可老師	75
症例1 胃がん (ステージIV)	76
症例2 噴門がん (胃食道接合部) (ステージ I A)	77
第3章 乳がん	81
概況	81
KEY となる処方——「乳C方」	82
症例1 乳がん (ステージIII B)	83
Column 劉炳凡老師	85
症例2 乳がん (ステージIV)	86
第4章 肺がん	91
概況	91
KEY となる生薬——半枝蓮	92
症例1 肺がん (ステージII B)	92
症例2 肺がん (ステージI B)	94
症例3 肺がん (ステージIV)	98
第5章 大腸がん	101
概況	101
KEY となる生薬——白花蛇舌草	102
症例1 虫垂がん (ステージIII a)	103
症例2 直腸がん (肺および肝臓に転移) (ステージIV)	106

第6章 婦人科がん	113
概況	113
KEY となる生薬——七洗い呉茱萸	113
症例 1 卵巣明細胞腺がん (ステージⅢ)	115
症例 2 子宮頸がん (ステージⅢ b)	120
症例 3 子宮体がん (ステージ I a (高分化型))	123
第7章 前立腺がん	129
概況	129
KEY となる処方——「前立腺 C 方」	130
症例 1 前立腺がん (ステージⅣ)・糖尿病	130
症例 2 前立腺がん (ステージⅣ)	133
第8章 肝臓がん	137
概況	137
KEY となる生薬——白花蛇舌草+石見穿	140
症例 1 肝がん (ステージⅣ)	140
症例 2 肝がん (ステージⅢ)	143
第9章 膵臓がん	147
概況	147
KEY となる生薬——白毛藤+菝葜	148
症例 膵臓がん (ステージⅣ)	148
第10章 腎臓がん	151
概況	151
KEY となる生薬——竜葵	152

症例 1 腎臓がん (ステージIV)	152
症例 2 腎臓がん (ステージ I b)	154
第 11 章 血液系の悪性腫瘍	157
概況	157
KEY となる生薬——蚤休	158
症例 1 MDS (骨髄異形成症候群)	158
症例 2 MDS (骨髄異形成症候群)	160
おわりに	169
診療の基本は思いやり	169
医療の基本は本居宣長の「物のあはれ」	170
医療において最も大切なことは	170
残された人生を「いかに生きるべきか」	171
[付録] 本書記載の生薬の原材料と中医学的効能	173
索引	189
あとがき	195

【附子の毒性】

附子や烏頭には、回陽救逆・補陽益火・温陽利水・散寒止痛などの優れた作用がありますが、周知の通り用量が多かったり、減毒のための調整が不十分であったりすると、強毒性のアコニン系アルカロイド(ジエステル型)による重篤な中毒が発現することがあります。

附子の使用にあたっては、少量から開始して中毒発現がみられないことを確認したうえで増量することが必要です。

中毒症状

- ①口舌や四肢末端の痺れ・めまい・心悸亢進
- ②嘔吐・流涎・嚥下困難・脱力感
- ③血圧低下・呼吸麻痺・痙攣・不整脈

なお、小高先生は63頁にある通り、舌裏の舌質の色をチェックすることが大事であると強調しています。

(編集部)